

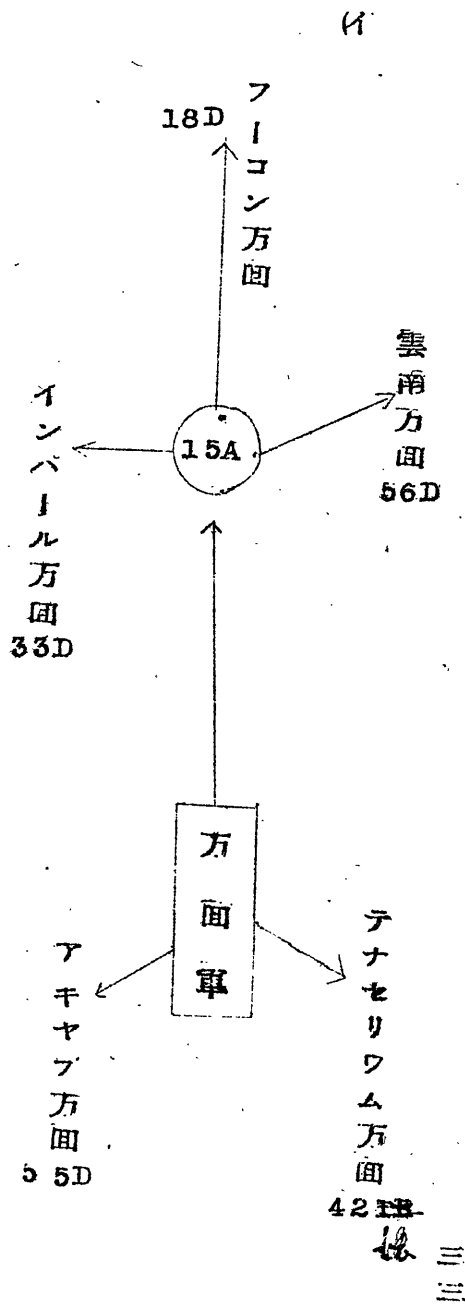
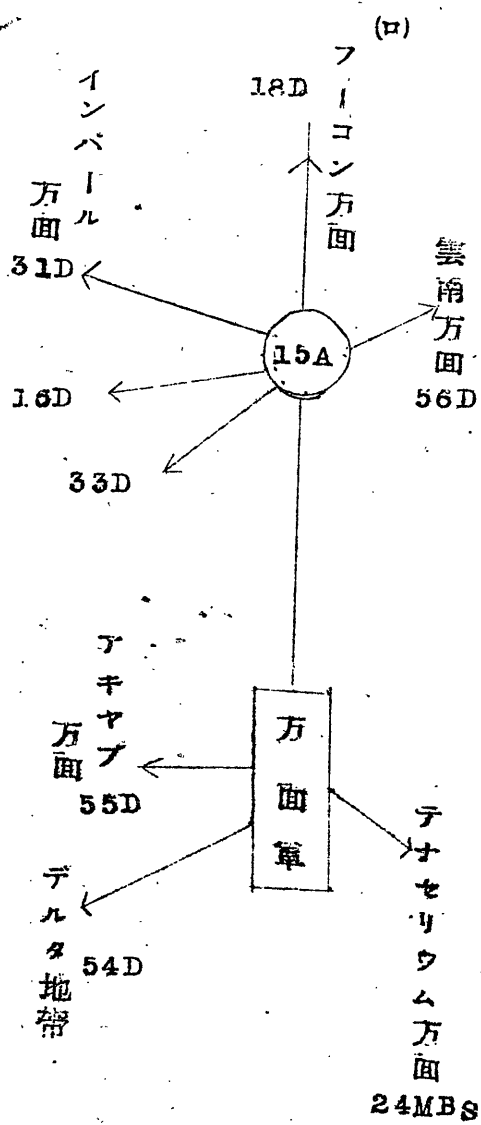
第四節 第二十八軍及第三十三軍の創設と其の意義

イムベール作戦必至の情勢となりしとき方面軍として緬甸全域の作戦を如何に指導すべきやに關し種々検討を遂げたり即ち作戦方面として独自の正面を形成するは

- (1) イムベール作戦を主軸とする西域印緬國境方面
- (2) アキヤブ方面に對する敵の反攻昨戰に歸聯する南西の沿岸方面
- (3) 怒江正面對重慶軍作戦を主軸とする雲南方面

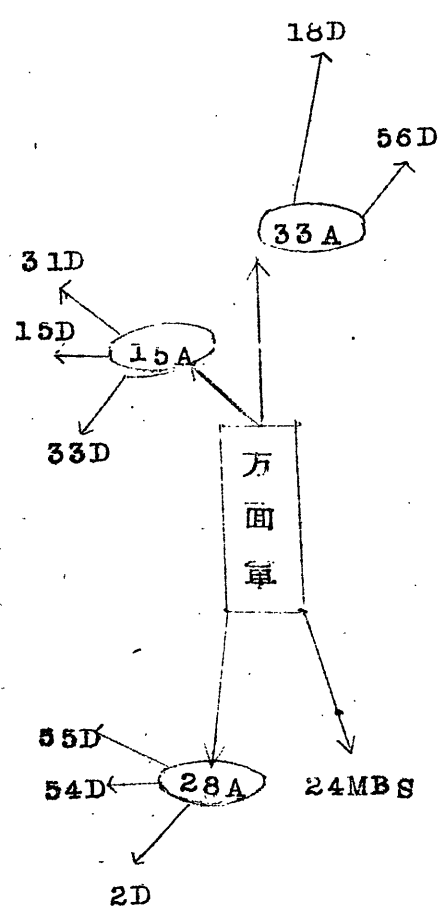
の三方面にして以上各方面共に其の作戦に獨立性を附與するの要ありと判断せり

而して^{緬甸方面}第十一軍編成當初即ち昭和十八年四月頃^{に於ける第十一軍}は左記の如き指揮關係に任りたるは緬甸防衛強化の爲遂次増強せられたる第十五師團、第三十一師團及第五十四師團の到着迄に獨立混成第二十四旅團の編成に伴ひ左記の如き指揮關係に變更せり



0195

右(四)の態勢は作戰指導上未だ甚だ不便にして第十五軍はイムペール作戦に徹底し難く方面軍としても第五十四及第五十五師團並に獨立混成第二十四旅團を直轄しつゝ更に第十五軍を指導するは過重なり
 以上の如き關係は必然的に中間軍司令部の増強を要望せらるるに至り
 數次中央部と折衝の結果新たに昭和十九年一月十五日、第二十八軍、(司令官櫻井省三中將)四月八日第三十三軍(司令官本曲政材中將)の編成を夫々下令せられたり
 右に依り各方面の指揮關係は左の如く節調せられ茲に一應其の態勢を
 完整し待たり



三

以上の如き態勢は昭和十九年四月頃に至りて初めて完整を見たものにして之より前三月八日には既にイムバール作戦は開始せられありたり
即ちイムバール作戦準備最高潮の時期より第三十三軍司令部編成完結迄の間は第十五軍としても第十八師團（ブーコン方面）及第五十六師團（雲南方面）に對する作戦指導は事實上困難なりしを以て止むを待たず方面軍に於て石兩師團を直轄せんとせしむるブーコン方面の作戦はイムバール作戦とは唇齒輔車の關係に在りしを以て差當り第十八師團の指導は依然第十五軍に委ね方面軍としては第五十六師團のみを直接指導して第十五軍の負擔軽減を圖れり
斯くして第三十三軍司令部の編成せらるる迄應急的指揮關係の節調は依り一先づイムバール作戦の發足を見たるも其の直後（三月中旬頃）敵空挺部隊モール附近に降下せり
茲に於て方面軍は急遽各方面より兵力を掻き集めて之を撃滅を圖りし

0197

も其の效なく更に新に緬甸に増強せられたる第五十三師團主力を加へて攻撃を續行中漸く第三十三軍司令部の編成を見たるを以て該司令官をしてフーコン及雲南兩方面の指導並に敵空挺部隊の撃滅に當らしめたり

又第二十八軍司令部は昭和十八年一月三十日其の編成を完結し當時既にアキヤフ方面に於て第二次反攻に轉せる英印軍と戦闘中なりし第十五師團及ラムレ島以南地區に逐次到着し第五十五師團の一部部隊と交代配備に就きつつありし第五十四師團並に新に緬甸に到着せる第二師團を併せ指揮し緬甸南西沿岸の防衛を擔任せり

第三章 イムパール作戦を主軸とする緬甸各方面作戦の展望

(別紙要圖第九参照)

第一節 イムパール作戦を主軸とする緬甸方面軍全般作戦指導

昭和十八年末頃に至る敵軍一般の状況左の如し

一、英印軍方面に在りては各方面共反攻の徴顯著となれるは明かに着取